



今月の話題

- 石井国土交通大臣表敬訪問
- 地震工学通年研修 2018-19 閉講
- 学位記授与式—政策研究大学院大学—
- 元研修生からの手紙
- 閉講式での研修生代表答辞

研修データベース

IIESENET(地震防災技術情報ネット)

IIESEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

石井国土交通大臣表敬訪問

国際地震工学センター 管理室長 山田高広

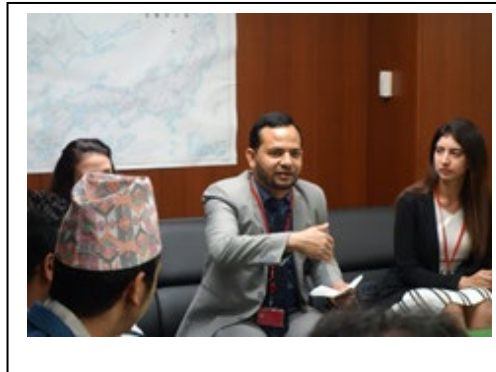
8月29日(木)に地震工学通年研修の研修生が石井国土交通大臣を表敬訪問しました。研修生は、大臣から、本研修成果や相互のネットワークを活かし、それぞれの国の地震防災対策のリーダーとして活躍して欲しいと激励されました。



また、研修生を代表して、ミャンマー連邦共和国のヤンヤンさんからは、歴史ある本研修プログラムを通じて、開発途上国に対する支援に御礼を述べた上で、本研修で得た知識を活かし、研修生それぞれの母国での災害対応能力を高めると共に、災害リスクを軽減する情熱を持ち続けることで、本研修の素晴らしい功績を証明したい旨の決意が述べられました。



最後に、9名すべての研修生と大臣から握手と写真撮影をしていただきました。今回実施された石井国土交通大臣表敬訪問が、母国の将来を担う研修生の励みになることを期待します。



地震データベース

2011年3月11日東北地方太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



石井大臣と研修生

地震工学通年研修 2018-2019 閉講

国際地震工学センター 管理室長 山田高広

昨年10月2日からスタートした地震工学通年研修の閉講式が、9月10日(火)に建築研究所で行われました。

今年は、7カ国9名の研修生に対して、研修修了証と科目履修証が授与されました。

この研修に選ばれて参加した研修生は、地震学、地震工学、津波防災の3つのコースに分かれ、それぞれの専門性を考慮した講義を受講するとともに、母国で抱える個別の課題に対応するための調査研究をまとめました。式では、政策研究大学院大学の菅原防災政策プログラムディレクターからは最優秀研究賞がそれぞれ3名の研修生に授与されました。研修で得た知識や人的ネットワークを活かし、母国での活躍をお祈りします。



JICA筑波国際センター所長
渡邊 健



建築研究所理事長
緑川 光正



最優秀研究賞を受賞した
ヤンヤンさん
(Sコース、ミャンマー)



最優秀研究賞を受賞した
ファーデラさん
(Eコース、ネパール)



政策研究大学院大学防災政策
プログラムディレクター
菅原賢教授



最優秀研究賞を受賞した
マイクさん
(Tコース、エクアドル)



楽しむのは今です。

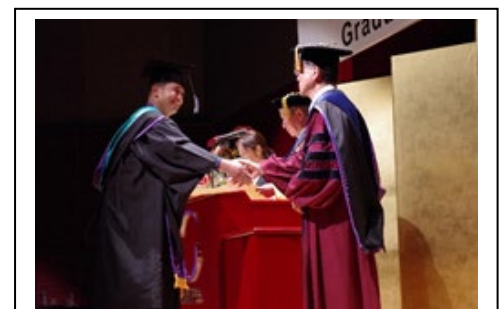
学位記授与式—政策研究大学院大学—

国際地震工学センター 管理室長 山田高広

地震工学通年研修は、独立行政法人国際協力機構及び政策研究大学院大学との連携により、所定の成績を収めれば、修士(防災政策)号を取得することが可能な研修となっています。

9月11日(水)には、地震工学通年研修に参加した研修生のうち、8名が政策研究大学院大学で行われた学位記授与式に出席してきました。

地震工学通年研修 2018-2019 コースの実施にあたって、ご協力いただきました関係者の皆様には、心から感謝申し上げます。どうもありがとうございました。





学位記授与式

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお願い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp
<http://iisee.kenken.go.jp>

**バックナンバーは
下記をご覧下さい。**

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

元研修生からの手紙

ロメル デビッド ザンブラーナ アレアス
ニカラグア国立自治大学 科学工学部 建築科
(ニカラグア、2015-16、地震工学コース)

元研修生のロメル ザンブラーナ氏から、下記のとおり連絡を頂きました。ロメルさん、ご連絡ありがとうございます。

こんにちは 親愛なる国際地震工学センターの先生方、スタッフの皆さん

私たちが日本を去って長い時間が経ちました。私たちは日本での経験、日本でできた友人、BRI の先生方のすべての講義を懐かしく思います。

先週古川信雄先生から連絡をいただきました。古川先生はニカラグア国立自治大学マナグア校で開かれた ScientificTalk というイベントの特別ゲストとして招待されました。

私たちの名門大学で開かれた古川先生のビデオを皆さんと共有したいと思えます。

たくさんの生徒や教授たちが古川先生の発表を聞きました。古川先生にもう一度お会いできたことはとても素晴らしいことでした。このイベントは、生徒たちと知識を共有するにはとても価値のあるものでした。彼らはとても楽しんだと私は確信しています。

ビデオをお楽しみください。そして皆さんとまたいつかお会いしたいと思います。

ロメル、ソチット、ナディア、マックスより

リンクはこちらです。 <https://youtu.be/UOa8stqATbA>

閉講式での研修生代表答辞

ロバート ジェイ ニマー パナリガン

レオナルド・ダ・ビンチはこう言います。

「学ぶ」というのは、心が疲れ切ってしまうことがなく、かつ、恐れることがなく、さらに、後悔することがない唯一のものだ。」

建築研究所理事長、緑川光正殿、政策研究大学院大学防災管理政策プログラム教授、菅原賢殿、国際協力機構筑波センター所長、渡邊健殿、国際地震工学センター長、横井俊明殿、そしてご臨席の皆様、おはようございます。



フィリピンのロバート ジェイ ニマー
パナリガンさん(地震工学コース)

地震、耐震工学、津波防災コースの研修員を代表し、卒業の辞を申し上げる機会を頂きましたことを光栄に存じます。しかしながら、この名誉は、わたくしにだけでなく、このコースで計り知れないほどの勉学に勤しんできた人、皆に与えられます。つまり、自然の営みの根本となる原理に、あらゆる手段を講じ、追求していく者に名誉があるのです。そこで、私たちの先生方は、その終わりのない試練に、慎ましく、光を与えてくださったのです。その光とは、自然の脅威を新たな学問に変換し、それを解明し、そして、その知識を共有して下さるのです。

私たちが来日した日を、昨日のように感じます。家族と別れ、国を立ち、新たなチャレンジを始めるという共通の目的を持って。ある者は、そのようなことは初めての経験であったかもしれません。全く異なる環境、文化の中で、どんなことに会おうかをまだ、知ることもなかったです。

わたくしが、来日してまず感じたことは、日本は、技術と文化が完全に相まっていることでした。伝統、祖先を大事にする一方、常に改善に向け、過去の経験から学び、次世代へ、良き未来を築く姿勢が、今日の日本に至った理由と考えます。

私たちは、JICA および IIESS のお力によって、日本および成長について、講義と視察から多くを学ぶことができました。このような機会から、日本が、過去の自然災害から、いかにして復興してきたかを理解できたのです。

災害から多くの命が犠牲となり、経済の損失に見舞われながらも、日本人の復興への諦めない志、そして、減災へのたゆまない努力を感じとってきました。私たちの国も、地震、津波など自然災害に曝されていますが、日本は私たちの目標となる国です。それぞれの国の現実を理解し、力強いコミュニティを作ることが、減災に効果があるのです。それには、国民に教育を施すことで達成できるのです。それが、私たちが日本にきた最もたる理由なのです。

知識を求める、わたくし達の夢を思い起こすと、風が吹く如くと、感じます。時にはかなく、しかし、その風は、多くの経験を運んでくれました。約一年間、家族から離れるつらさ、しかしながら、JICA、IIESS、GRIPS など多くの機関が、来日から今日まで、常に支援をして下さいました。知識への探求が、今の私たちへ導きました。多くの方は、未知のことにチャレンジすることをためらいます。しかし、私たちは、夢を追うことを選び、そして、家族から離れながらも、日本で学ぶチャンスを得たのです。そこでは、先生方のプロとしての意識、知識への強い関心、叡智、その一方で、比類ない謙虚さに魅了されたのです。

人生の中では、私たちは、近道を取りたい衝動があります。自分たちに簡単なことを選びます。しかし、知識、叡智を求めるには、近道は全くありません。家族から離れて過ごすことは簡単なことではありません；財政的なこと、時間、知力、気持ち、すべてをバランスよくしなければなりません。いま、私たちは、自身に求められていることを認識、許容し、学んだことを活用するステージに入ります。

日本で多くのことを学びました。知識、叡智を得ました。しかし、謙虚であることを忘れてはいけません。自分たちを理解してもらおうと思わず、他人の気持ちを理解するようになりましょう。“学位に威厳を持たせすぎてはいけない。”私たちは、今、知識を得たのですから、人に奉仕されるのではなく、人へ奉仕するようになりましょう。学位は、私たちの国の貢献への原動力となります。いま、私たちがこの場にいられるようにして下さった、先生方、そして、皆さま。私たちは、このコースで学んだことを、すべて自国で活用することをお約束します。地震学、津波学、耐震学の各分野で、自国の成長に貢献すべく、知識を自国の者へ共有します。

最後に、IISEE/BRI、JICA、GRIPS の皆さんへ、知識、経験、信頼を授けてくださったことに、今一度、感謝の意を表します。同じくして、バングラデシュ、コロンビア、エクアドル、ミャンマー、ネパール、ニカラグア、そしてフィリピンの7か国を代表して来た、素晴らしい友に出会えた機会に感謝します。友へ、ここに辿り着くまで、どれだけの試練があったことか。時に、気持ちが折れそうなきもあつたでしょう。しかし、お互いが助け合うことで、再び、志へ向かったのです。さながら、大家族のように。友へ、卒業おめでとう、しかし、ここが終わりではないのです。これが、新たな旅へのスタート地点なのです。

最後に、チャールズ・ケタリングの格言をもって、わたくしのスピーチを終わりにします。

「自分自身を信じ、自分の考えを信ずるのなら、たいていは成功する。」

皆さま、ありがとうございました。

